

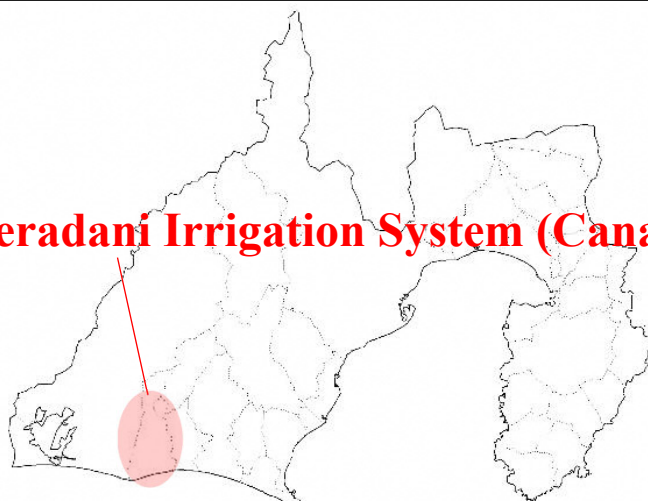
世界かんがい施設遺産

てらだにようすい

寺谷用水

〔静岡県・磐田市〕

Teradani Irrigation System (Canal)



～大河川から取水する広域かんがいシステムの草分け～



現在の水路（大塚樋跡）



明治期の風景

■寺谷用水は、1590年に完成し、大河川の治水と利水を一体的に行う革新的なかんがい技術導入の先駆けとなった。その技術は日本のかんがいの進展に大きな影響を与えた。

■水路建設のプロジェクトは、農業開発を通じた経済成長を目指し、後に江戸幕府の将軍となる徳川家康の命で始まった。その命の下、家臣の伊奈忠次が企画し、代官の平野重定が工事を始めた。彼らは、暴れ天竜と呼ばれた天竜川の氾濫原から農地を分離する堤防とともに、延長12kmの水路を建設した。水路は着手から完成まで2年を要し、新たに開田された400haを含めて2,000haの水田を潤した。

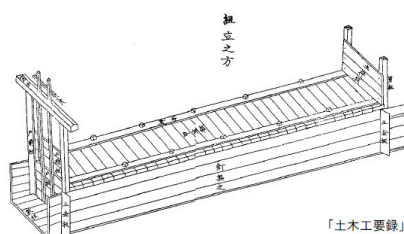
■このプロジェクトでは、水路の取水口部における洪水の越流を避けるために、取水工は堤防と大型の木製函渠（**坎樋**：幅4m、高さ2m、長さ21m）を組み合わせる形で設計された。

■完成後、大河川における堤防と函渠を組み合わせた画期的なシステム（関東流、伊奈流）は高く評価され、江戸幕府はそのシステムを国内の多数のプロジェクトに適用した。

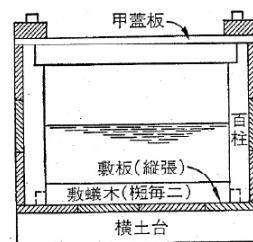
■また、平野重定は、73か村への円滑な配水と水路の維持管理のため、農民による組合「井組」を組織した。現在、「井組」は寺谷用水土地改良区や水利組合に継承され、400年以上にわたる歴史と共に、用水及び施設管理が継続されている。



古図による寺谷用水「勾坂中村絵図」



坎樋全体図（関東流）



「明治以前日本土木史」

坎樋断面図